

# 自立活動部だより

天王みどり学園自立活動部  
発行日 2018. 9. 18 No. 2

自立活動の充実を図るために、外部専門家からアドバイスを受けて授業に生かしています。夏休み前の外部専門家支援は、OT、PT、STそれぞれ3回ずつ行われ、延べ48人アドバイスを受けています。

今号では、アドバイスを受けた中からいくつかの取り組みについて紹介します。裏面では7月25日の夏休みに行われた職員研修「STによるミニ講義」の内容についてお知らせします。

## 外部専門家による支援のポイント

### 高橋 OT

Q手元を見て集中して作業するために注意すること

A作業工程や作業の終わりが分かりやすく示されているかなどを踏まえた上で、姿勢をしっかりと保持できているかということが大きく影響してくる。一定時間姿勢を保持することが難しい子は、運動の持続が苦手で集中が途切れやすいことが多い。土台（身体）の安定を図ることで、手の操作（運動）性と眼球運動が向上し、手元をよく見て学習に取り組むことにつながる。

集中するためにも、  
はっきり話すためにも  
姿勢が大切なんだね



### 佐藤 ST

Qはっきりと話すための体操について

A姿勢が大切。猫背の場合、壁に後頭部、両肩、おしり、かかとをつけ、よい姿勢を意識して「アー」と10秒程度声を出す。その際、同じ声の大きさ・高さで発声し、顔や顎が上がらないように注意する。はっきり話すためには、発声を最低10秒続けられることや、肺にたくさん空気が入る良い姿勢になることが大切。

### 那波 PT

Qつま先歩きの改善について

A低緊張や関節・筋肉を上手に動かせないことにより身体のバランスが不安定なため、つま先立ちで歩いた方が楽だったり、自分で感覚や刺激を入れて歩いてしまったり、また足裏の感覚過敏により足底接地が難しかったり、という理由が挙げられる。

→踏み台昇降や片足立ち、後ろ歩きなどでかかとの接地を促すことや足裏の感覚に慣れさせること、また、靴の中敷を工夫することで少しずつ改善できる場合がある。

## 本校の医療的ケア



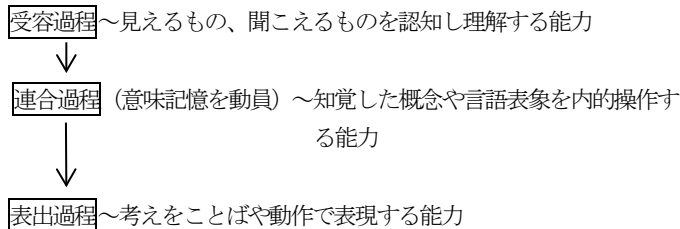
本校の医療的ケアは、現在、1名の看護師がケアを行っています。主なケア内容は経管栄養、酸素吸入、与薬などで、ケアルームで看護師が行っています。医療的ケアは、自立活動と深いつながりがあるので、学級担任は、ケア中の生徒の姿勢変換やコミュニケーションなど、安心してケアを受けることができるように配慮しながら行っています。「医療的ケアは教育を支える」「医療的ケアは命を支えている」といわれています。医療的ケアと自立活動を相互に補いながら進めることで健康で豊かな力が育ちます。そのためには看護師と学級担任が目的を共有することが大切だと考えます。さらに全職員が理解を深めることができるように医療的ケア研修会、安全に進めることができるように、緊急時対応研修会（心肺蘇生法）、緊急時を想定した緊急時対応訓練を実施しています。保護者の方々の御協力をいただきながら安全で確実な実施の積み重ねが大事だと考えます。



題 「意味（ことば）のネットワーク」について

サンクリニック 言語聴覚士 佐藤静華先生

【ことばを習得して用いるための過程】



記憶は会話に必要不可欠な要素であり、その記憶にはエピソード記憶と意味記憶があります。エピソード記憶の再生には、豊かな意味記憶（知識）が必要で、意味記憶を動員してエピソード記憶を引き出します。

ことばの習得とは、意味（ことば）のネットワーク化のことで、複雑に繋がった「ことば」の網を作ります。そして、あるものに関する知識を、1つのまとまりとして記憶に蓄えることで、ことばが整頓され、取り出しやすくなります。この意味のネットワーク化は3歳後半から4歳台に構築されます。

このようにことばを習得し、それを用いるには、3つの過程があります。1つは受容過程（情報を受け取る）で、2つめは連合過程（情報を解釈する）、3つめは表出過程（誰かに伝えようとする）です。受容過程においては、自分自身を介在するため、ものの見方（図と地）や共感（共同注視）を意識し、どう情報が入ってきているのか、どこを見てそういう答え方をしているのかを捉えていくことが必要です。また、連合過程においては、意味記憶が増えすぎると記憶の取り出し（表出）に非効率的で、知識が習得されにくくなるため、抽象化（ことばを結ぶ）が必要になってきます。

本来、ことばは自然習得されるものであり、日常生活で自然習得を促す仕組みを作っていくことが大切です。例えば、類推トレーニング（共通点・相違点の抽出）や関連する事柄を話題化・言語化、架空の世界に触れる（絵本・物語など）等があります。



家庭では・・・

普段の体を使った遊びや、家事のお手伝い（お料理、お掃除）など、実際の体験をしているときに少しでも丁寧に言葉掛けをしてあげることで、ことばが身に付きやすくなります。実際の経験を経ることで、物事や絵本からも、ことばを深められるようになっていきます。



例えば、「トマトを切る」ときに「柔らかいね」「丸いよ」「転がるね」「しっかり押さなきゃね」「1回切ると2つになるね」等、いろいろな言葉や感覚に触れることができます。

【ことばの習得】 ⇔ 【意味のネットワーク化】

